

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「E X E－i グローバル中小型株式ファンド」は、2018年5月14日に第5期決算を行いました。

当ファンドは、主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざして運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

E X E－i グローバル 中小型株式ファンド

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第5期（決算日2018年5月14日）

作成対象期間（2017年5月13日～2018年5月14日）

第5期末（2018年5月14日）

基準価額	16,661円
純資産総額	5,191百万円
第5期	
騰落率	11.3%
分配金（税込み）合計	0円

（注1）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

（注2）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

（注3）当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記SBIアセットマネジメントのURLにアクセス
⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択 ⇒「目
論見書・定期レポート等」を選択⇒「運用報告書（全
体版）」より該当の決算期を選択ください。

SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、
レポート等をご覧いただけます。

SBIアセットマネジメント

URL:<http://www.sbiasset.co.jp/>

E X E－i 専用Webサイト

URL:<http://www.sbiasset.co.jp/EXE-i/>

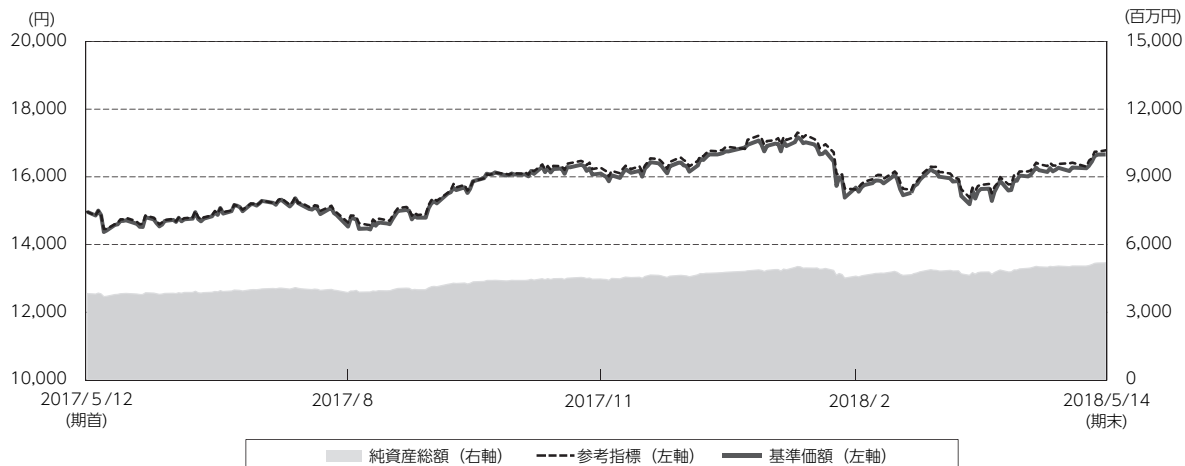
E X E－i Facebookページ

URL:<https://www.facebook.com/sbiasset/exei/>

運用経過

基準価額等の推移

(2017年5月13日～2018年5月14日)



期 首：14,968円

期 末：16,661円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率： 11.3%

(注1) 参考指標は2015年1月まではMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス・スモールキャップ (米ドルベース) を、2015年2月からはFTSEグローバル スモール・キャップ インデックス (米ドルベース) を委託会社で円換算しています。詳細はP11をご参照ください。

(注2) 参考指標は、2017年5月12日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。

(注3) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

米国の利上げペースが鈍化するとの観測や、米国の税制改革法案の公表などを受けて金融正常化が緩やかなペースで進むとの思惑が広がったこと、円安などが上昇要因となりました。

下落要因

政治リスクの台頭、長期金利の急上昇、世界的な貿易摩擦懸念、地政学リスクに対する警戒感、円高などが下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細

(2017年5月13日～2018年5月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 39	% 0.250	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(17)	(0.109)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(17)	(0.109)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(5)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	2	0.011	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投 資 信 託 証 券)	(2)	(0.011)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.000)	
(d) そ の 他 費 用	3	0.016	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.012)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	44	0.277	
期中の平均基準価額は、15,745円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しております。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

最近5年間の基準価額等の推移

(2013年5月13日～2018年5月14日)



(注) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

	2013年5月13日 設定日	2014年5月12日 決算日	2015年5月12日 決算日	2016年5月12日 決算日	2017年5月12日 決算日	2018年5月14日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,327	14,289	11,954	14,968	16,661
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	13.3	26.1	△ 16.3	25.2	11.3
参考指標騰落率 (%)	—	15.7	27.5	△ 15.9	24.6	12.1
純資産総額 (百万円)	281	1,062	2,133	2,641	3,830	5,191

(注1) 参考指標は2015年1月まではMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス・スモールキャップ (米ドルベース) を、2015年2月からはFTSEグローバル スモール・キャップ インデックス (米ドルベース) を委託会社で円換算しています。詳細はP11をご参照ください。

(注2) 参考指標の騰落率は、ETF購入後の2013年5月14日の値から計算しています。

(注3) 参考指標は、2013年5月13日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。

(注4) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注5) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2014年5月12日の騰落率は設定当初との比較です。

投資環境

(2017年5月13日～2018年5月14日)

<中小型株式市場>

期首は、米国の歳出法案が議会で暫定合意をされたとの報道や、欧州に保護主義が伝播するとの懸念が後退し、投資家心理が改善する一方、「ロシアゲート」などの混乱から上値が重い展開が始まりました。7月に入ると、米国の利上げペースが鈍化するとの観測や、好決算企業が上昇を牽引しました。一方で、欧州では量的緩和（QE）の減額が意識され長期金利上昇とともに通貨ユーロが上昇し、欧州株式市場は企業の輸出採算悪化の懸念から軟調推移となりました。

10月から年末にかけては、米国の税制改革法案が公表されたことや、良好な企業決算を背景に米国の主要3指数が揃って上昇しました。欧州ではインフレ率の低迷や各国の政治リスクの台頭から様子見ムードが続いていましたが、欧州中央銀行（ECB）による量的緩和延長の決定を受けて通貨ユーロの下落とともに上昇に転じました。年明けは、世界的な景気回復期待を背景に上昇して始まりました。しかし、欧州の金融正常化観測の高まりや、米財務長官のドル安容認発言による円高進行を背景に調整局面を迎えました。

2月に入ると米長期金利の上昇をきっかけにVIX指数が急騰しました。これを受けて世界中の株式市場が暴落し、為替市場でも急速な円高が進行しました。その後も米長期金利は2.9%台で高止まりしましたが、上昇の一服とともにVIX指数が低下し、株式市場に買戻しが広がりました。3月に入るとトランプ米大統領が関税を課す方針を示したことで、貿易摩擦が懸念され再び調整する局面がみられましたが、米国が環太平洋経済連携協定（TPP）への復帰を検討しているという報道や過度な貿易摩擦懸念後退、利上げペース加速懸念の後退を受けて買い安心感が広がりました。また、内需関連銘柄を中心に物色される傾向が高まり、大型株式と比べてアウトパフォームしました。トランプ米大統領がイラン核合意離脱を発表し、原油価格の上昇を通じてエネルギー関連銘柄が相場を押し上げました。

<為替>

ドル／円は113円台後半からスタートしたあと、ロシアゲート疑惑が浮上し、110円台後半までドル売り円買いが進みました。その後、良好な米経済指標や日米株高を背景に円安・ドル高に転じましたが、日米金融政策の方向性の違いが意識されたことや、ECBが金融正常化観測や資源価格の持ち直し、日米金利差拡大等を材料に114円台までドル高円売りが進みました。イエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長の議会証言を受けて米利上げペースが緩やかになるとの観測が強まり、ドル売り・円買いに転じました。

ドラギECB総裁のタカ派な発言によるユーロ高や、トランプ米大統領の政権運営の不安定間が意識されたこと、米消費者物価指数（CPI）が市場予想を下回ったことを背景とした利上げペースの鈍化が意識され、9月上旬にドル／円は108円台となりました。

その後、米国の年内利上げ観測の高まりやトランプ米政権による税制改革案の公表が追い風となり、ドル／円で113円台までドル買いが進みました。9月米雇用統計で賃金上昇率の加速が確認されたこと、衆議院総選挙における与党優勢報道、米税制改革の進展期待等がドル買いの材料となる一方、北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりや、市場予想を下回る結果となった米CPI等が円買い材料となり、一進一退の値動きが続きました。年明けから3月上旬にかけては円高基調となりました。日銀の買いオペ減額の発表、中国当局の米国債購入の縮小・廃止を検討するとの報道、米財務長官によるドル安容認発言、米長期金利の急騰による世界的なリスク回避の動き、米中間の貿易摩擦懸念などが材料視されました。

3月下旬から期末にかけては、円安・ドル高基調となりました。良好な米経済指標の発表や貿易摩擦懸念の後退などを背景に徐々にドル売り・円買いが進み、ドル／円は109円台で期末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年5月13日～2018年5月14日)

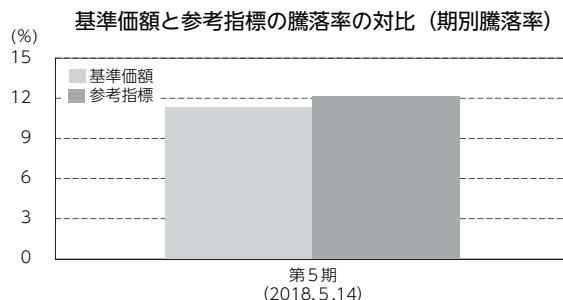
モーニングスター・アセット・マネジメントの投資助言に基づいた基本投資割合に従い、海外のETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資を行いました。投資比率の合計は95%以上の高位を保ちました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年5月13日～2018年5月14日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

右記のグラフは、基準価額と参考指標の騰落率の対比です。



(注) 参考指標はFTSE グローバル スモール・キャップインデックス（円換算ベース）を使用しています。
詳細はP11をご参照ください。

分配金

(2017年5月13日～2018年5月14日)

当期は基準価額等を勘案した結果、収益分配は行わないことといたしました。

収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第5期
	2017年5月13日～ 2018年5月14日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,661

(注1) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資し、世界（日本を含む）の中小型株式市場の値動きと同等の投資成果をめざします。当ファンドの運用にあたっては、モーニングスター・アセット・マネジメントの投資助言を受け、原則として年1回基本投資割合の見直しを行います。

お知らせ

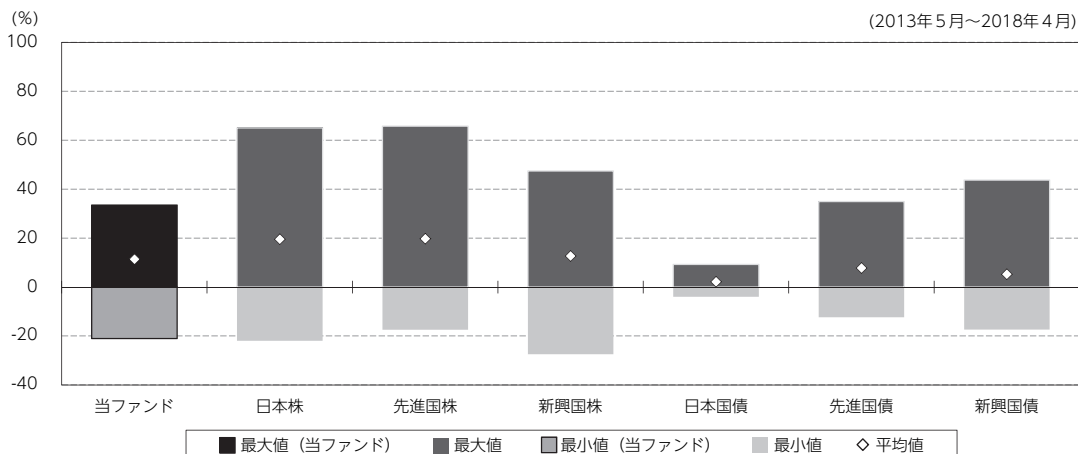
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式
信 託 期 間	無期限（2013年5月13日設定）
運 用 方 針	・主として世界（日本を含む）の中小型株式市場の値動きに連動する投資対象ファンドを複数組合せることにより、信託財産の中長期的な成長をめざします。 ・参考指標は、FTSE グローバル スモール・キャップインデックス（円換算ベース）とします。（2018年5月14日現在） ・市場の変動により、投資対象ファンドの組入比率が基本投資割合から乖離した場合は、原則として3カ月に1回、基本投資割合へ戻す調整を行います。 ・基本投資割合の見直しについては、投資対象ファンドの経費率、パフォーマンス、参考指標との連動性、流動性等を考慮して、原則として1年に1回行います。 ・当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行い、実質的な運用は投資信託証券への投資を通じて行います。 ・当ファンドの運用にあたっては、「モーニングスター・アセット・マネジメント株式会社」の投資助言を受けます。
主要投資対象	主としてETF（上場投資信託）への投資を通じて、世界（日本を含む）の中小型株式へ実質的に投資します。
運 用 方 法	主としては世界（日本を含む）の中小型株式市場の値動きに連動する投資対象ファンドを複数組合せることにより、信託財産の中長期的な成長をめざします。
分 配 方 針	毎決算時（年1回毎年5月12日。休業日の場合は翌営業日とします。）に、分配方針に基づき分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とし、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	33.5	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△ 21.0	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	11.4	19.6	19.7	12.7	2.2	7.8	5.2

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2013年5月から2018年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、2013年5月13日（設定日）から2018年4月27日のデータを基に算出しております。したがって、代表的な資産クラスとの比較対象期間が異なります。

(注4) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P11の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2018年5月14日現在)

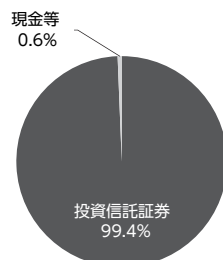
○組入上位ファンド

銘 柄 名	第5期末
	%
シュワブ U.S.スモールキャップ ETF	59.8
バンガード・FTSE・オールワールド (除く米国) スモールキャップETF	39.6
組入銘柄数	2銘柄

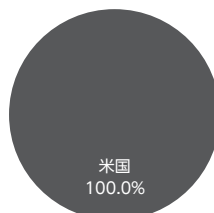
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載されています。

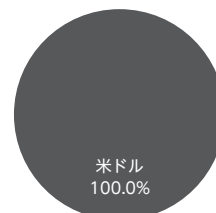
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分は組入投資信託証券の株式評価額に対する比率です。

(注3) 国別配分は発行国を表示しております。

(注4) 通貨別配分は組入投資信託証券の株式評価額に対する比率です。

純資産等

項 目	第5期末
	2018年5月14日
純 資 産 総 額	5,191,192,317円
受 益 権 総 口 数	3,115,712,584口
1万口当たり基準価額	16,661円

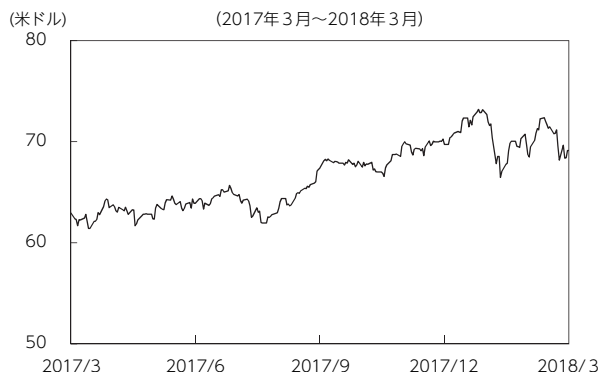
(注) 期中における追加設定元本額は1,290,031,559円、同解約元本額は733,705,401円です。

組入上位ファンドの概要

シュワブU.S. スモールキャップETF

【基準価額の推移】

(2017年3月～2018年3月)



【組入上位10銘柄】

(2018年3月末現在)

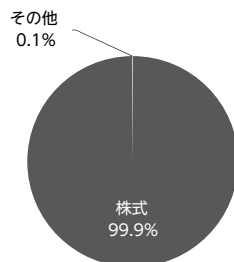
	銘柄名	比率
		%
1	Nektar Therapeutics	0.61
2	GrubHub, Inc.	0.31
3	bluebird bio, Inc.	0.30
4	Zebra Technologies Corporation Class A	0.26
5	SAGE Therapeutics, Inc.	0.26
6	Neurocrine Biosciences, Inc.	0.26
7	Teledyne Technologies Incorporated	0.24
8	GoDaddy, Inc. Class A	0.23
9	First American Financial Corporation	0.23
10	Guidewire Software, Inc.	0.23
組入銘柄数		1,745銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

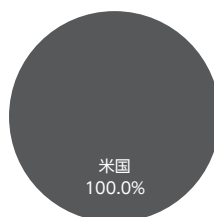
【1万口当たりの費用明細】

入手可能な1万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

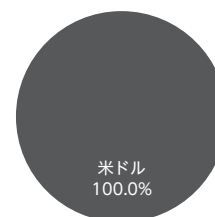
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 資産別・国別・通貨別のデータは2018年2月28日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別配分は株式評価額に対する比率です。

(注4) 国別配分は発行国を表示しております。

※Bloomberg及びCharles Schwab Investment Management, Inc.のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

バンガード・FTSE・オールワールド（除く米国）スモールキャップETF

【基準価額の推移】



【組入上位10銘柄】

(2018年4月末現在)

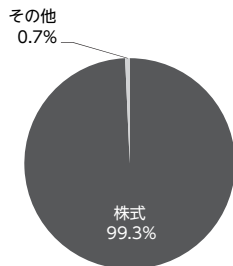
	銘柄名	比率
1	First Quantum Minerals Ltd.	0.4%
2	Open Text Corp.	0.3
3	Onex Corp.	0.3
4	Yageo Corp.	0.3
5	CCL Industries Inc.	0.3
6	GVC Holdings plc	0.2
7	Bombardier Inc.	0.2
8	Gildan Activewear Inc.	0.2
9	a2 Milk Co. Ltd.	0.2
10	Scout24 AG	0.2
組入銘柄数		3,601銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

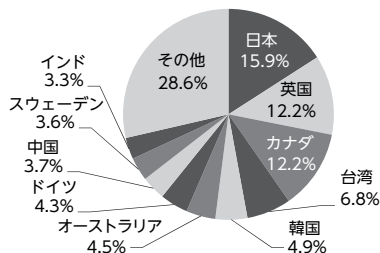
【1万口当たりの費用明細】

入手可能な1万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

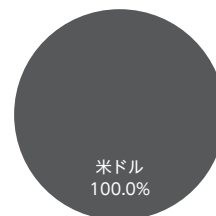
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 資産別・国別・通貨別のデータは2018年4月30日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別配分は株式評価額に対する比率です。

(注4) 国別配分は投資国を表示しております。

※Bloomberg及びThe Vanguard Group, Inc.のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

＜当ファンドの参考指標について＞

参考指標は2015年1月まではMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス・スモールキャップ（米ドルベース）を、2015年2月からはFTSE グローバル スモール・キャップ インデックス（米ドルベース）を委託会社で円換算しています。

○FTSE グローバル スモール・キャップ インデックス

FTSE グローバル スモール・キャップ インデックスとは、FTSE社が開発した指数で世界の中小型株式市場全体の動きを表す指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はFTSE社に帰属します。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA - BPI国債

NOMURA - BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

EXE-i シリーズ専用サイトのご案内

投資者の皆様に向けて、様々なコンテンツをご用意しています

エグゼアイ

検索

「エグゼアイ」で検索いただくと専用サイトへ
アクセスできます
(「EXE-i」での検索でも可能です)



SBI Asset Management

ETFとETFを掛け合わせてEXE(エグゼ)、ETFの「パフォーマンスを左右するインデックス」の頭文字から(アイ)、これら二つを合わせてEXE-i(エグゼアイ)と命名しました。(運用開始日2013年5月13日)

EXE-iシリーズとは



EXE-i EXE-iの特徴 商品概要 マーケット情報 知って? 納って!

ファンド情報

ファンド名	基準価額 (前日比)	純資産	ファンド情報
EXE-i EXE-i 先進国株式ファンド	16,621円 (+256円)	7,310百万円	ファンドの特徴
EXE-i EXE-i 新興国株式ファンド	12,193円 (+128円)	8,185百万円	ファンドの特徴
EXE-i EXE-i グローバル(中小型)株式ファンド	16,711円 (+290円)	5,234百万円	ファンドの特徴
EXE-i EXE-i 先進国債券ファンド	11,107円 (+46円)	1,455百万円	ファンドの特徴
EXE-i EXE-i グローバルREITファンド	13,243円 (+206円)	3,050百万円	ファンドの特徴
EXE-i EXE-i つみたてグローバル(中小型含む)株式ファンド	9,931円 (+156円)	833百万円	ファンドの特徴
EXE-i EXE-i つみたて新興国株式ファンド	9,825円 (+100円)	468百万円	ファンドの特徴
EXE-i EXE-i つみたて先進国株式ファンド	9,604円 (+148円)	236百万円	ファンドの特徴

お知らせ

2017/10/06

EXE-i

EXE-i (エグゼアイ) シリーズ 紹介動画

EXE-i についてのお問い合わせ先

スマートフォンサイトはこちら

日々の基準価額や純資産
総額、及びファンドの詳細
ページへのリンクを掲載

月次マーケットレポート

当ファンドの助言会社でもあるモーニングスター社のアナリストによるマーケットレポートを毎月更新

国内/海外マーケットレポート

投資信託の評論家、モーニングスター株式会社のアナリストによる各月のマーケットレポートです。

基準日：2018年4月27日 (欧米は30日)

2018年4月のレポート

国内株式 日経平均、TOPIXともに3カ月ぶり反発、好決算受けリスクオンの動き広がる

2018年4月の国内株式市場は、日経平均株価が前月比14.72%、TOPIX(東証株価指数)は前月比3.55%と前月より反発した。前半は上昇した。先月末まで続いていた米中貿易摩擦に対する懸念が、中国の習近平主席の訪米を受けて楽観し、自動車や機械などの輸出に減速を及ぼすとの市場多量の懸念を受けやすくなり、株価を押し上げた。後半は上昇した。半導体の需要下落や長期金利の一時3%必要といった懸念材料があったものの、国内企業の2018年3月期決算で予想を上回る成果が相次ぎ、リスクオンの動きが広がった。また、朝鮮半島の緊張緩和や、為替相場で1ドル=109円台前半まで円安が進んだことを受けて、輸出関連銘柄を中心に買いが入った。結果的に4月27日終値は日経平均株価が2万2,467.87円、TOPIXが1,777.23ポイントと、それぞれ2月5日、2月27日の水準を回復した。

※上記内容は2018年5月末時点

インデックスファンドによろしく

漫画「ブラックジャックによろしく」のイラストを用いてEXE-iについて解説した漫画コンテンツ



インデックスファンドによろしく※

漫画「ブラックジャックによろしく」のイラストを用いて、EXE-i (エグゼアイ) について解説しています。

- 先導1話 30分でおけるEXE-i (エグゼアイ)
- 先導2話 EXE-i (エグゼアイ) と日本株のSA
- 先導3話 EXE-i (エグゼアイ) とNISA (ニーサ)
- 先導4話 今回のための知識、投資のための知識
- 先導5話 EXE-i (エグゼアイ) 投資戦略
- 先導6話 「低コスト」以外の魅力

インデックスファンドに
よろしく5

「ブラックジャックによろしく」在野秀樹
© 著者 Web: <http://mangaaweb.com/>